

<平成26年度 地球温暖化対策実行計画の施策実施状況の公表について>

地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3第10項の規定に基づき、岩手沿岸南部広域環境組合の地球温暖化対策実行計画の施策実施状況を以下のとおり公表します。

平成27年8月18日

岩手沿岸南部広域環境組合
管理者 釜石市長 野田武則

1. 温室効果ガス排出量

年 度	温室効果ガス排出量	前年度比	目標年度比
平成23年度（基準年度）	22,988 t (CO ₂)	—	—
平成24年度	26,126 t (CO ₂)	113.65%	119.64%
平成25年度	25,589 t (CO ₂)	97.94%	117.18%
平成26年度	20,147 t (CO ₂)	78.73%	92.26%

目標年度（平成28年度）温室効果ガス排出量＝21,838 t (CO₂)

※平成23年度（基準年度）の5%削減を目標

平成26年度は、目標年度の温室効果ガス排出量を達成することが出来ました。

2. エネルギー使用量の目標達成状況

種 別	平成23年度 (基準)	平成24年度	平成25年度	平成26年度
コークス (t)	2,520	3,048	2,715	1,789
A重油 (KL)	270	272	266	217
昼間電力(千kwh)	433	231	235	213
夜間電力(千kwh)	296	156	148	147
軽油 (L)	3,000	4,500	4,400	3,300

種 別	前年度比
コークス (t)	65.89%
A重油 (KL)	81.58%
昼間電力(千kwh)	90.64%
夜間電力(千kwh)	99.32%
軽油 (L)	75.00%

種 別	平成28年度 (目標)	平成24年度	平成25年度	平成26年度
コークス (t)	2,394	3,048	2,715	1,789
A重油 (KL)	256	272	266	217
昼間電力(千kwh)	411	231	235	213
夜間電力(千kwh)	281	156	148	147
軽油 (L)	2,850	4,500	4,400	3,300

種 別	目標年度比
コークス (t)	74.73%
A重油 (KL)	84.77%
昼間電力(千kwh)	51.82%
夜間電力(千kwh)	52.31%
軽油 (L)	115.79%

3. 温室効果ガス排出量が減少した要因等について

(1) ごみ量の減少

平成26年度の温室効果ガス排出量が平成25年度と比較して減少したひとつの主な要因は、災害ガレキの減小に伴うごみ量の減少が上げられます。

ご存じのとおり、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」により当地区は壊滅的な被害をこうむりました。

そのため、平成25年度は、引き続き通常生活ごみと併せて災害ガレキの処理を進めてまいりましたが、平成26年度は、災害ガレキ処理がほぼ終了し、通常生活ごみの処理に集中することが出来ました。

全体として、災害ガレキが大幅に減少しましたが、震災により減少した通常生活ごみは、震災前の水準に戻りつつあることから増加しました。

年 度	通常生活ごみ	災害ガレキ	合 計
平成23年度	27,733 t	7,699 t	35,432 t
平成24年度	30,107 t	11,359 t	41,466 t
平成25年度	31,453 t	10,382 t	41,835 t
平成26年度	32,624 t	978 t	33,602 t

(2) エネルギー使用量の減少（バイオマス燃料使用の取り組み）

平成26年度は、温室効果ガスの対策として、バイオマス燃料（木質チップ）を使用することでのコークス代替試験に取り組み、大きな成果を上げました。

バイオマス燃料の使用により、コークスの使用量が大きく減少し、ごみ量の減少と併せて平成28年度の目標を達成することが出来ました。

4. 今後の対応

今後は、今まで増加（震災前に戻った。）してきたごみ量も落ち着きを見せ、徐々に減少に転じるものと思われます。そのためCO₂発生量も抑制されるものと期待されますが、バイオマス燃料のより効果的な活用を図り、更なる燃料等の節約に努め、前年度の実績を下回るように努力してまいります。